

製造業における女子雇用

—岐阜県加茂郡坂祝町を事例として—

吉田道代

坂祝町は、岐阜県の南部、愛知県との県境を流れる木曾川沿いに位置する。全産業に占める製造業の就業者数構成比は約5割に達し製造業を中心とする産業構造をもっている。

本研究では、全国的な女子の雇用状況を踏まえたうえで、坂祝町の製造業を中心とする産業構造の動向及び女子の雇用状況を明らかにし、同地域の女子雇用の現状及び産業構造による女子労働への影響について明らかにすることを目的とする。

全国的に見ると、女子は一般的に新規学卒で就職、結婚・出産を機に退職し、育児の一段落で再就業する就業パターンをとる。再就業する女性は増加傾向にあり、そのため近年中高年女子の労働力率が伸びている。従業上の地位では雇用者が増加し、産業別にみると8割以上が製造業、卸売・小売業飲食店、サービス業の3産業に就業している。最近のサービス経済化を反映し、特にサービス業での伸びが大きい。職業別では、事務従事者と技能工生産工程作業者の割合が高い。勤続年数の長期化、有配偶化も進んでいる。正社員以外の雇用形態についてみると、パートタイム労働が、中高年女子の有効な再就業の場として増加しているが、資金の低さ、長すぎる労働時間などの条件の悪さが問題になっている。派遣労働は、能力が生かせる、賃金が高い、好きな時間に就業できることなどが、若い女性に受けて、20代を中心に人気の高い雇用形態である。OA機器を使った在宅勤務は自宅にいながら勤務できるということで、自分に合わせた勤務可能な雇用形態の可能性をもっているが、いずれも不安定な雇用という問題が残っている。

坂祝町を取り巻く地域の産業構造については、いずれも製造業の構成比が高い。県外からの大企業の進出もあって、地場産業を中心とする岐阜県の製造業の構造とは違い、先端技術産業地域となっている。坂祝町も製造業を中心とする産業構造で、きっかけは、昭和12年の紡績工場の設立である。現在は輸送用機械の製造が盛んであり、就業者数の製造業の業種別構成比でも最大を占めている。

坂祝町の女子就業者数も製造業が最大を占めている。中心となるのは、中高年の女子で作業労働に従事するものが多い。また、従業地別に女子就業者数をみると、年齢が上がるに従って県外、他市町村の割合が低下し、自町内の割合が高くなる。中高年女子で製造業の割合が高いのは、中高年女子が就業先を自宅近くに求めていることと、事業所側が経費節約のため作業労働にできるだけ女子を求めることが原因と考えられる。

坂祝町及び美濃加茂市、各務原市で行った製造業の事業所での聞き取り調査の結果の分析では、女子雇用者における新規学卒者と中途採用者の2分化、パートタイム労働者の低い労働条件が明らかになった。パートタイム労働者は、正社員に近い労働時間を、正社員よりずっと低い賃金で働いている。

同地域での製造業では、新規学卒者は結婚退職し、中途採用者はおもに作業労働に就くことが慣行となっている。一つの企業内での雇用形態に関し、雇用者側の選択の余地はほとんどない。同地域では企業側が作り上げた雇用慣行に従った製造業の女子の就業状況といえる。